

(評価資料3)

研究課題	3 希少植物の種の保存および地域資源としての活用に関する研究(24-28)
研究目的・背景	岩手県において絶滅の危険性が高まっている植物を対象に「種の保存」を進める増殖技術の開発を検討する。特に本県の歴史や、文化・産業に深いかわりを持つ植物を対象にする。本研究で開発した技術は、国内の絶滅危惧植物の種の保存および本県の環境保全政策に役立てるのはもちろん、地域の産業振興や農業振興などの高度な要求に応えられるように取り組む。
研究結果	<ul style="list-style-type: none">○ 山林開発に伴う希少植物の保護について技術指導を行い、国内初となるアツモリソウ野生株の移植を行った。この成果を環境省に報告し、第17回自然環境復元学会全国大会で発表した。○ 東日本大震災後から継続してきた沿岸部の希少植物調査を継続実施した。国や県および市町村の復興工事に伴う問い合わせに対して適切な助言指導を行った。○ 東日本大震災の津波やその後に発生した台風によって自生地が破壊されたエゾオグルマの緊急移植を行った。移植全個体の生存と初開花を確認するとともに、胚培養による苗生産法の開発に成功して生息域内保全に取り組んだ。○ 開発したコマクサの大量増殖法が原著論文として掲載された。○ 国の依頼を受けて、国内1箇所に自生するアツモリソウ属植物の増殖試験に取り組んだ。環境省の種子バンクセンターに長期保存された種子は多くの種子について胚が死滅していたが、開発した培養液に浸水させて活性化を図った結果、種子290粒中6個が発芽した。○ 花巻市の依頼を受け、資源活用に関する講演を行った。また、大迫地域に自生する絶滅危惧植物2種から花酵母を採取する相談に対応して予備試験を行い、増殖した酵母をサンプルとして提出した。○ 国際登録種を交配親に活用し、新品種5種の発芽と栽培試験を行った。
評価結果	<ul style="list-style-type: none">○ 総合評価 A(4人)・B(2人)・C(0人)・D(0人)・E(0人)○ 総合意見<ul style="list-style-type: none">・ 岩手県の環境において非常に重要な研究であり、十分な成果を上げている。今後も継続して取り組むべき課題である。・ 希少種の保存と増殖として有用な結果と思われる。・ 研究は目標をほぼ達成していると評価できる。しかし、自然災害は予測が困難な側面があり、より安定的に保存が可能な方法を開発すべきと考える。・ 生物多様性保全のための重要な研究である。・ 県民に分かりやすい成果の発信が大事であるが、概ね本研究の成果は達成され、総合評価はA評価と考える。・ 本研究の成果により種の保存がなし得た。原著論文も発表しており大きく評価される。

センターの対応方針	<p>① 研究成果は目標を十分達成した</p> <p>Ⅱ 研究成果は目標をほぼ達成した</p> <p>Ⅲ 研究成果は目標をかなり下回った</p> <p>Ⅳ 研究成果は目標を大幅に下回った</p> <p>Ⅴ 研究成果がなかった</p> <p>アツモリソウ、エゾオグルマ等保護の緊急性がある岩手県の重要な希少植物の研究に取り組み、東日本大震災津波によって生息域の地盤が消えた植物の保護が野生絶滅の回避につながるなど成果をあげることができた。</p> <p>今後は、この研究で得られた知見を活用して、絶滅の危険性が極めて高い植物を対象に、種を存続させるための技術開発に取り組んでいきたい。</p>
-----------	---